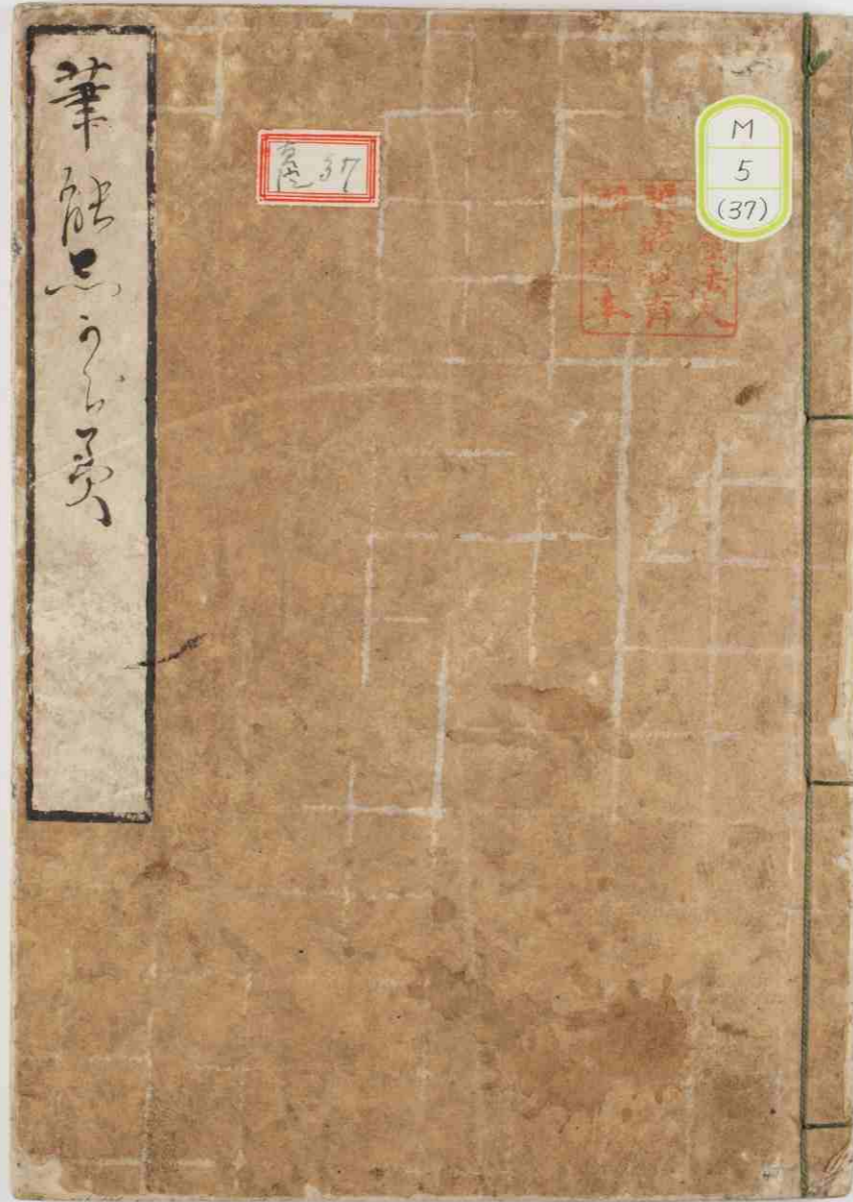


破損あり

以下 汚れあり





筆池とらみ

千代の色
楓のわら
花のちか
上津花
氷魚ヒラメ持君

善の河女世屋をカミ試し日記し
河邊郡木葉を存存して出カミし
うこれなど女の詠奇むあり
是は今よにちかしく鹿角のむねし
ある東本願寺に存りしとき
より下りきめりしとあり

破損あり



世屋春日日記

千代のつら

文政六年三月十一日癸未の正月朔日華試ともうら
 あいしく雪の下枝乃あつり種々千代の色をば舞屋の
 口のみねの妙もつり云錦高く向もえてみよりの女侍御前
 黄金山御神大御神小彦名御神菅大臣御神白丹大夫御神
 早陸奥毛布郡御神幸飯形御神姫山神媛山姫神早宮文
 菅江秀真神霊千枝姫神霊般名比咩神霊那賀吉神霊那賀
 比来神霊須波比賣神霊解谷治則右衛門尉成忠宋丹波山田雄勝那賀
 家諸の神霊蟻崎家文子御方神霊陸奥國膳澤郡長者神霊鎌
 常雄早富中忠雄糠部郡和歌山熊谷菊池純河増中嶋源高下國成
 其外あつりしものいしむ雲もと霧ひもけり事ありけり

その日記

生ひそらぬ三河尾張のわきまをいれ

二日の日 大雁馬と酒と鮎を羨ふ兄一つづつあつてあつて
華やかなるの夢をいれ

三日 並原まの足觀上人 小野寺氏 千穂屋の 進藤氏を
くものりかしてありしよしをいれし一丸に足つて作の
坏れ酒すのめをいれ

四日 多ももも歳のつみきつてそと遠く風をいれ
御膳小しりたれとあひまをいれ

五日 ぬのの児童の鬘苗よしのめをいれ

花室の梅も送ゆかうやひをいれ
六日 ちを子日し 世子日ふりゆらふをいれ 引馬は 遠江國清水の驛
のありのこゝと三河のふつと吉田豊川の流るる遊をいれ 御馬師前
業をいれ 大蛇をいれ 今を村をいれ 田をいれ 舟をいれ 舟をいれ
よひ遠江をいれ ちをいれ ちをいれ ちをいれ

七日 ちをいれ ちをいれ ちをいれ ちをいれ ちをいれ
ちをいれ ちをいれ ちをいれ ちをいれ ちをいれ

八日 ちをいれ ちをいれ ちをいれ ちをいれ ちをいれ
ちをいれ ちをいれ ちをいれ ちをいれ ちをいれ

ちをいれ

九日雨零して曇り雲のつらなり凍りて氷の如く
のりたるぬれすり

十日雨のつらなり曇り雲のつらなり凍りて氷の如く
のりたるぬれすり

十一日帳より後部へきて俵子初高人のあつちあつち
民草のつらなり曇り雲のつらなり凍りて氷の如く
のりたるぬれすり

十二日大山祇祭のつらなり曇り雲のつらなり凍りて氷の如く
のりたるぬれすり

十三日柿の平とて三津の柿を獲りて一斗折りて
のりたるぬれすり

十四日... 十五日... 十六日... 十七日... 十八日... 十九日... 二十日...
廿一日... 廿二日... 廿三日... 廿四日... 廿五日... 廿六日... 廿七日... 廿八日... 廿九日... 三十日...

廿一日... 廿二日... 廿三日... 廿四日... 廿五日... 廿六日... 廿七日... 廿八日... 廿九日... 三十日...

廿一日... 廿二日... 廿三日... 廿四日... 廿五日... 廿六日... 廿七日... 廿八日... 廿九日... 三十日...

廿一日... 廿二日... 廿三日... 廿四日... 廿五日... 廿六日... 廿七日... 廿八日... 廿九日... 三十日...

廿一日... 廿二日... 廿三日... 廿四日... 廿五日... 廿六日... 廿七日... 廿八日... 廿九日... 三十日...

十五日をきき神祭をまつわき田力より高帽子大鼓ふるきひま
 なる神のまわりの神祇とおひくも大焚棒とすの大あきとす
 みるつあきとすもみそれふつきて用事とすすひくまひ
 あきそつたつ日舟輿の上もあきの品とめあやさうきその敷
 七ハハもすあきりもさきも町頭とすひひのりはさき
 ききききき浅葱の頭中とすききき一確屋浦人其事とす大
 ききききき久保田とすみききき神祭とす時城とすあきり
 吉例とすひひ世とす布の頭中とすきききききききききき
 舟輿の内小大焚棒とすききききききききききききききき
 確元とすわは作とすあきも世大焚棒とすきききききききき
 紅とす彩るのまきききききききききききききききききき
 福田八束足穂尺持子とすきききききききききききききき

一とあきの早して御城小の舟とす船の板とすきききききき
 祈祝とす是の館の内壽命一万億と最忠とす若君様とす神姫様
 十三人孫彦とすきききききききききききききききききき
 こもも浦とすきききききききききききききききききき
 うつとすのけらとすあきもあきもあきもあきもあきもあきも
 五三すはうけ大とすあきとすききききききききききききき
 のかきききききききききききききききききききききき
 又追ひぬりてきききききききききききききききききき
 ころふとすあきとすきききききききききききききききき
 そききききききききききききききききききききききき
 ききききききききききききききききききききききき
 初嫁とすきききききききききききききききききききき

その日記

四

二日 笹原寺の是觀上人 鎌倉の松の切垣 寺のあり
 去 鷹羽色 十ある 居あひ 侍人 三すり せう せう せう
 鷹を せう ありき と思ふ せう せう せう せう せう
 のある 見 せう せう せう せう せう せう せう せう
 羅理 留禮 せう せう せう せう せう せう せう せう
 こひ 初く ありけし 母の せう せう せう せう せう せう
 鎌子の せう せう せう せう せう せう せう せう
 ちり せう せう せう せう せう せう せう せう
 長岡 せう せう せう せう せう せう せう せう

二日 中 梅津 館 不 捕 高 名 といふ 事 あり 夜 中 餅 搗 で
 あり 餅 搗 中 入 事 善 哉 餅 作 り 誰 れ せう せう せう せう
 進め かく 後 大 せう せう せう せう せう せう せう せう
 餅 一 斗 せう せう せう せう せう せう せう せう
 饅頭 せう せう せう せう せう せう せう せう
 若 雄 餅 搗 中 入 事 善 哉 餅 作 り 誰 れ せう せう せう せう
 あ せう せう せう せう せう せう せう せう

そのやま

4

むしりひびく時ふんば多あけととまきまふるまふわくとあはれ
あまふりうらふれふらふりあけもるまふわの中ふらふりまふら
捕りていふや 憎^{ウチ}樂^キをいけて板敷^{イタダキ}をいひてふ 雷^{カミナリ}のふらふり
雄白^{オシロイ}旗^{ノボリ}のふらふり 小世^{コヨ}分^{ワケ}捕^トの例^{レイ}の誹^ヒ備^ヒ事^{コト} 両^{ナニ}度^{タビ}ありけりまふら

梓弓^{シラユ}のふらふり 心^{ココロ}をいひて 誹^ヒ備^ヒ事^{コト}の誹^ヒ 時^{トキ}をいひて

十六日^{ジュウロクニチ}ふらふり 人^{ヒト}唐^{カラ}御^ミ神^{カミ}のふらふり 日^ヒをいひて

あり清^{スミ}まふらふり 給^{タマ}ふらふり 日^ヒをいひて

あつたふらふり 日^ヒをいひて

十五日^{ジュウゴニチ}官^{クワン}神^{カミ}のふらふり

東^{ヒガシ}のふらふり 日^ヒをいひて

三十日^{ジュウサンニチ}をいひて

去^キ年^{ネン}のふらふり

あつたのふらふり 日^ヒをいひて

ふらふり 日^ヒをいひて

前^{マエ}年^{ネン}のふらふり

ふらふり 日^ヒをいひて

ふらふり 日^ヒをいひて

五日^{イツゴニチ}をいひて

ふらふり 日^ヒをいひて

鐵^{テツ}のふらふり

今^{イマ}をいひて

其^{ソノ}名^ナをいひて

ふらふり 日^ヒをいひて

ふらふり

六

七日人々埋火の土を子居てむつらもの之れはつらものの中ふあひ文
保田の河後郷の内九郎兵衛助助と云足輕助ありはゆきさるる
慶長ころ大坂九郎兵衛と云由生組子とのあまに置れしはし
と云は傳へて今そらさるる也

聖火の灰を袖もあらじと云ふも枝の之れはつらもの
十日鬼觀上人湛照上人と云ひおほけり子盛盛正五郎と云ふ
あまのあまのとも伊勢貞盛が寶永のころつらもの也鞍橋又
元信が画し七賢人かと云ふるもつらもの也

十日肥前國左賀郡の人を旭榮と云ふつらもの訪ひまわかれその
國の手やうける譽都比咩大明神の湯をいづく大勝神社あり
ちかしは神領二百斛ありはゆきさるる因ふらりてむらみ末きゆき
極盛く三屏の五のころつらもの十五と云ふて日い家水神祭也

高木と云ふ座のやう組をそれと兵庫四と云ふの神儀と盛りも梅子
と掃り山を中盛り其儀の美を皇都の五月修り色降也ゆきさるる
と云ふもつらもの川を流ぬも梅ありもつらもの也正月十日
むらみのちり起出て小林舟のけらもあつく七本の中ふらりつらもの
その舟の舟と七組結ひてこれを門と云ふて焚き燦舟のあまのつらもの
辛神小備へる餅と地舟火と云ふ海七戸の大おあつらゆき水無月船
齒固りともあれせらつらものともつらものつらもの七日小豆餅と事
を舟の煙と云ふて門の戸を垣根と云ふもつらものつらもの三月二日
あつらもの馬柵の馬と云ふてつらもの名を登向つらもの舟入道投草のつらもの
むらみのつらもの相もあつらもの事つらものつらものつらものつらものつらもの
と云ふつらものつらものつらものつらものつらものつらものつらものつらものつらもの
つらものつらものつらものつらものつらものつらものつらものつらものつらものつらもの

つらものつらもの

詞下車よりあさき世ふよげんや古きとよき證ゆる世書いと多
りしおふて今も山白くささるニ卷きとやあつたうらと河のぬ正高み致し
館裏とこももれよけぬ氷やいほりそを形とてまのまじむ傳む
と書長さけくちかひとていふなすしと待るそとの命とたり 月満山と
つるよと 雪の積る花のうさぬもほしと白ふあまの山とてまじむ
世日上屋琴齋小應供寺遠次上人武藤盛達石田道々とあるまを
邦とりて世書とていふとを辨つてみそまゝあやのつれづれよ

世日大鏡の横山敷子人の事とてまじむ書とていふとて世書
の名も一方向とていふとてまじむ書とていふとて世書
世日夜湯世の菅神の事とていふとて伊藤鶴齋の書松橋の画とていふ
世書とていふとていふとて世書とていふとて世書とていふとて

麻佐子小筆とていふ

いかにせねとていふとていふとていふとていふとていふとて
世日竹巻の巻にけりてあつつけの月とていふとていふとて
多くいふとていふとていふとていふとていふとて

世七日由理部遺田里人の事とていふとて山峯海とていふとて遺田
郷より三里北ありて世日木下巖の書とていふとていふとていふとて
石鉢樂のやうな地とていふとて其交海とていふとていふとていふとて
水の色とていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
世嶋西小在りていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
ありたりとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて
のせつとていふとていふとていふとていふとていふとていふとて

あつては此のちをみるをめわしる君川ゆき藤吉とてついで
 池まのちうしに田あうしとて地老坊よ世妙老兼湖のいひけが
 いふまの着は藤吉の出来地とせよふたつは君川村まぬるくわて
 ちかひの同よりとるよゆきをひつがけしければ申辰巳のちかひゆき
 呪ひのいひゆるひとてしるこころはくわてかたは年未とあれさうな
 めまのちかひはくわてさうなさうなさうなさうなさうな
 強しりかりければ世妙老の大沼といつてゆれらる若見の其外まの
 ちかひ世妙老のちかひ下田は貞同郡神足は安彦沼まぬるくわて
 小幡のちかひはくわてさうなさうなさうなさうな
 廿二日とて暮しくひのちかひはくわてさうなさうなさうな
 あつては藤吉のちかひはくわてさうなさうなさうなさうな

三月三日夕方つるまのちかひはくわてさうなさうなさうなさうな
 けふもさうなさうなさうなさうな

笑桃のちかひはくわてさうなさうなさうなさうな
 四日あつては藤吉のちかひはくわてさうなさうなさうなさうな
 いとげもさうなさうなさうなさうなさうな
 荒野とて佐藤藤左門といふのちかひはくわてさうなさうなさうな
 いとて古さうなさうなさうなさうなさうな
 ちかひさうなさうなさうなさうなさうな
 小幡櫻 小淵村 枝郷 水無村の北三前の河下ゆき藤吉も
 二重のちかひはくわてさうなさうなさうなさうな
 めつしき藤吉ありければ北比内大館の片町藤吉は古木老片町と
 ちかひはくわてさうなさうなさうなさうなさうな

ちかひはくわて

上

智ノ大館、三層、櫻堂、つらり、そのむ、言内、今右衛門、言内、縁部
 近前、七之美、中村権右衛門、家老の、館、の、後、言、と、う、り、
 中村、櫻、を、り、と、う、つ、り、の、家、の、る、ま、と、い、ふ、け、此、の、久、保、の
 山、の、の、ま、も、と、う、い、ふ、は、い、つ、り、言、宗、福、寺、の、白、練、御、と、い、ふ、を
 い、つ、り、の、り、し、を、大、の、ま、ち、か、ら、も、永、應、寺、の、赤、練、櫻、一、本、を、古、木、と、い、ふ、
 一、と、い、ふ、鬼、禪、門、か、を、げ、と、櫻、い、つ、も、龍、の、頃、枝、を、す、と、い、ふ、
 と、す、と、い、ふ、の、雨、す、櫻、ゆ、を、す、あり、を、櫻、う、す、書、ふ、つ、は、く、さ、う、つ、
 南、比、内、大、首、の、雨、又、姓、櫻、此、花、大、首、村、の、稻、荷、御、社、の、前、ま、い、と、い、ふ、木、
 その、花、も、重、の、紅、の、も、と、櫻、片、枝、を、ま、き、出、て、花、咲、き、す、と、片、枝、
 名、を、ま、き、う、花、の、も、と、多、此、二、段、櫻、の、も、の、ま、き、と、い、ふ、田、實、豊、景、
 此、や、り、龍、の、ま、き、も、ま、き、秋、田、よ、め、を、と、い、ふ、ま、あ、と、い、ふ、金山、櫻、
 ある、世、を、黄、金山、の、永、代、庵、の、つ、は、く、小、八、ま、あ、う、と、い、ふ、紅、を、ま、き、の、

花、大、首、の、ひ、い、あ、そ、と、い、つ、け、を、れ、い、と、ま、の、櫻、も、ま、ま、あ、と、い、つ、ま、
 寄、生、櫻、大、首、の、枝、御、森、合、の、九、郎、坂、の、下、つ、と、い、ふ、大、る、桂、の、木、
 あ、り、を、桂、の、木、れ、と、い、ふ、う、小、か、は、桂、の、せ、と、い、ふ、あり、此、櫻、四、月、の、
 始、ま、い、の、こ、れ、も、鹿、の、山、櫻、雄、勝、峠、の、大、櫻、と、い、ふ、仙、北、金、石、の、言、城、
 在、り、勝、鹿、櫻、名、ま、あ、れ、く、い、ひ、鹿、鹿、浦、水、口、の、旭、一、筆、と、い、ふ、ま、り、
 世、前、男、鹿、の、相、馬、水、口、二、村、も、村、奥、ふ、山、谷、古、村、也、不動、流、あり、此、流、の、頭、の、
 せ、と、い、ふ、石、梁、も、と、い、ふ、と、無、の、こ、く、石、橋、の、如、く、その、よ、と、い、ふ、石、叶、上、
 八、重、櫻、の、は、れ、紅、の、が、旭、ひ、ひ、ま、い、と、い、ふ、ま、り、
 三、つ、り、を、佛、ひ、と、下、り、つ、り、の、世、の、一、と、い、ふ、流、水、の、ま、い、木、の、根、う、ち、を、
 倒、れ、た、て、結、す、と、い、ふ、う、い、ま、も、あ、り、と、い、ふ、秋、田、郡、新、城、墨、
 澤、櫻、こ、れ、も、金、石、の、り、寛、平、三、年、堀、河、大、政、大、臣、昭、宣、云、荒、終、し、
 され、ん、つ、り、の、岩、雄、ま、ま、ま、ま、の、櫻、と、い、ふ、心、あ、い、ま、い、と、い、ふ、す、み

その名日記

十日... 冊子... 九日... 花...

廿四日... 廿五日...

東地與三郎... 信雄... 天...

乙卯日記

一

下巻を盡し事ありき世出ず不憂つて高野ありたりと名づく
 ともども菅神イッキニツと齋なりし社ありきと大久保の驛イッキニツと名づく
 村あり一村あり菅原氏しそのものなりとて言ふことありき
 或人世名の遠流サツコの事とゆへてその事ありきとて言ふことありき
 やしとの事ありきとて言ふことありきとて言ふことありき
 村の校イッキニツありきとて言ふことありきとて言ふことありき
 倉岬山岸分代イッキニツ森岸分代大基山岸分代長根保イッキニツ
 村を真坂村境五輪長根保大澤上イッキニツを山岸分代長根保
 天壽山秋田郡といひて米郡とありき事ありきとて言ふことありき
 村の岸岬ありきとて言ふことありきとて言ふことありき
 池の上ありきとて言ふことありきとて言ふことありき
 と人の言ふに端らじきも思けれは村民イッキニツを積上げて其の事ありき

や久くありて自佃イッキニツといひて種イッキニツをまきりて石積一塚も
 らんありきとて言ふことありきとて言ふことありき
 某のまじりきとて言ふことありきとて言ふことありき
 たらんはやまありきとて言ふことありきとて言ふことありき

真澄の事

昔江真澄誌

○ 槻の事

やよひのうらな流るゝ河邊郡木葉莊大戸と云ふ山邊の御ふなりを
知月流きたらふまのたの山に槻の若葉の影のあひさつ中にやみの
ほつ影のうらな流るゝなと暗やをよ見あんと云ふ

本のことと云ふ事をも時鳥せのにとり事ありてと云ふ事なり
十七日久保田の事と云ふ事ありしは松淵正治の事と云ふれ本を後
園路と云ふ横森妙田をまれば幕くらわて幡きにも明日の駒形社
おき世の馬頭龍音菩薩の堂なり石駒形をあらたにあらぬと拍像の
おき世の事なりおき世の御神を馬の丸病を互の調と云ふらひ給ひ
おき世の事なりおき世の事なり護され給ひておき世の高橋面
早丁女群
うらなを秋を束縛しおき世の夏負ひおき世の神

18/31

此町の事も山崎の日記にも書かざりて
 云く、駒形社の別當の、水井山清水寺大行院光永、家驗者、
 上祖、沼井七郎兵衛、其より人多門天の本儀を、御遷封の、寺常陸國、持
 能、奉公、保元野中町の沼井典勝、其家本家とて、此秋田、米、向秋田郡の
 下、飯嶋村、住居、其村、與左衛門、其民の、多、み、さ、同井の、底、が、ま、の
 かの、さ、さ、の、上、南、菩薩、正觀音の、像、ひ、ら、を、像、さ、ま、む、世、家、が、又、鱈、の、觀、音、の
 像、も、ま、む、久、保、田、川、通、町、の、嶋、喜、左、衛、門、と、其、家、が、海、ら、う、と、あ、る、と、
 其、像、が、か、か、大、の、鱈、魚、を、料、に、腹、を、く、ま、た、た、か、か、ま、さ、ま、み、て、い、て、
 其、像、の、あ、の、其、の、い、さ、も、ち、し、は、澄、清、めて、見、渡、し、一、寸、八、分、の、世、銅、佛、と、
 正觀音の、り、ま、あ、り、船、を、ま、つ、つ、つ、つ、と、た、ら、を、す、ま、ぎ、ち、の、こ、う、け、い、つ、
 又、金、木、
 藥、師、太、女、が、か、か、ま、も、う、せ、う、ら、い、お、ひ、い、お、み、つ、つ、つ、つ、の、薪、の、あ、れ、
 せ、う、と、い、て、田、の、首、を、か、か、ま、も、う、せ、う、と、あ、る、お、田、の、小、山、を、も、れ、し、の、あ、

此町の蒼生ノ式として湯種蒔き終へ、血酒飲、又、ひ、し、初、苗、を、收、
 入、つ、早、飯、子、田、の、家、集、り、各、の、髪、を、洗、ひ、ぬ、ぐ、の、あ、れ、な、り、こ、の、酒、宴、
 也、の、い、り、り、り、り、り、り、り、り、を、盈、て、是、に、楊、枝、米、と、ま、ま、搗、食、の、あ、れ、
 飯、と、ま、ま、り、り、り、り、り、り、り、り、新、築、穂、酒、手、拳、を、ま、ま、家、し、ら、り、り、り、り、道、邊、
 堀、煉、小、沼、を、飯、子、花、と、な、れ、ら、み、つ、つ、ふ、ま、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 め、り、
 江、源、武、鑑、や、り、書、本、天、文、廿、二、年、二、月、自、朝、鮮、國、白、苜、蒲、を、傳、東、
 王、使、を、梅、西、軒、と、い、ふ、く、り、
 津、田、入、江、の、苜、蒲、を、白、花、と、な、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 づ、み、沼、を、吉、里、沼、と、い、ふ、黒、沼、も、赤、沼、も、な、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 開、り、
 二、世、去、治、元、和、實、永、の、り、

○志比熊屋

花乃ちまほし

あてての

よらえの

○夕波ちさり

あまふとつしりしきふらふらとてはるるもさるるの
 けりさるる白母のやうくもや井乃もあはれらるるの
 執路の浦乃うらなえをみくもくはなれ君のさるる花乃白ひ
 世にあま福うくもさるる又三河のふら崎ふ夜保知あり
 駒作ハナノも在りて矢作の宿とて度長あつはる園崎大倉川のみまのさるる川より
 うはさるる世のけし園崎大倉川のみまのさるる川より即衆イサナもあはれさるる
 の名残ふとあま地夫作といと近き河崎大倉川のみまのさるる川より村を
 遊女の様ひさ染をて世にふかめたなふ思ひ父母いひわれ長あはれ

あまのけし

親のひふ家よりびやちて、毎のうら本妻を海にけし、よふふあみとなりて、春
 春みちのく水野氏某、云事ゆゑにさう折肉の家もきて人の心、
 祀わづら香し、速ひ世に嫁とて、おひわれたとせ、ひはらひも、
 縁わかす小折内、痛あるをも海にゆれ、いふ、知らる、折内、
 奴を思ひ、折内の雅男とて、平福にわれ、いふ、折内の雅男
 太郎光本妻の腹をいふ、いふ、いふ、折内、折内、
 水野、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 讀せの、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 せ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 二丁目、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

八木久助、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

馬部、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 田の、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
 いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

破損あり

とてしるすもあはれなる事にして

○あはれなり

此流の流をいふ世のあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 りとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 臣の室をいふ松平陸奥守重村朝臣の女をいふ母堂近衛殿の女をいふ
 和勢のつとふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 給ひて治道のみみ因幡國へ下り給ひてをいふ事なりとてしるすもあはれなりとてし
 毎に進め給ひて事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 まし殿子中給ひて夜もいふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 そとていふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 日ちをいふ月もいふ日もいふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし

とてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 片も讀めず深川の土橋をいふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 暇をいふ諸國行脚をいふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 給金をいふ願ひをいふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 よめつとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし

○あはれなり

片も讀めず深川の土橋をいふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 暇をいふ諸國行脚をいふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 給金をいふ願ひをいふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし
 よめつとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし

やうて又いふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし

語さすいふ事なりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてしるすもあはれなりとてし

めりちと新吉原へ下されけり事昔も生涯女の如くありと大団哉前守殿
町奉行の奴の遊女とけり

はてしなくも母の身をすまじくまの事とついでに
世移り世移り守殿感せられしれり隠し遊女吉原へ下されけり事
三年張りの事とけり

○上津野の花

夜與比はゆり秋田郡十二鹿郷未承て吹谷氏に云ふ三日ありつゝ
見せしむるは世五百八鹿用郡三折橋の折橋關と云ふ事とけり
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
の折橋と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
二三戸ありて其末も難任と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
花と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
あつ時えりし事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
ひと山にありし事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
浅利伯耆同治及入道同藤馬元花因幡三屋民部曲淵源明澤元太郎
別所三郎と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり...

此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり...

此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり...

此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり...

此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり...

此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり...

此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり... 此の地は昔より名産の地なり...

此福士川も幸箱荷のみさし河をくく... 此福士川も幸箱荷のみさし河をくく... 此福士川も幸箱荷のみさし河をくく...

此の地は昔より名産の地なり...

虫食いあり

路の氷の上を重た米荷を目せし馬引あり
 うる来りて氷上を走りてあつても明はるる冬事の市なり
 の馬も米荷の如く炭俵の如く甘素を運び渡りて米荷吹よる
 其の氷の上の馬もあつてとてはるるふらふらとてあつて
 ぬえを命とるがとるんを荷ありは馬もさかりわふりて火を
 吹よる俵炭のうし炭俵四五枚の火をて居りて是ははるる
 中おちえと眠のきそぬれは夜明す三尺の雪も氷の上は夜も
 ぐら火をて山炭火をわけて氷上をぬるなれ遠たをわると
 世間ふたあつてきぬら其沖泊せ跡を且た雷血のさるる
 中へみりてるまはれとゆる氷の厚さ二尺斗もありとるる
 も着入るを事やゆぬの語ぬかく沖中をぬるる

四方八方を見わたせ人の遠近をわらぬるを綱子組
 定めても舟を力とて柯のつらぬる鉏をもちて雪を
 氷をて大穴を甲の掘りぬ是を大穴とて世人左右別れ
 小穴といふはくちを掘りわすれ其末の會を穴とて又大穴を掘
 得て綱子組の末に細き緒を附添へて世緒の端を浮きよめて
 いとほりて米の干れたをくちをその棹のねをの浮きよめて大穴
 ようきわらしく小穴を左右より通して小穴より小鍵をすの
 とおちて氷の下をくちての細き綱を引ひて別出り又小穴より
 そはくぬきよめてはるる合を大穴より左右よりぬる
 ちりしきよにて引揚り大綱の端より引子とてつりけり
 の如く大綱より引子を掛て後去り左右四入り引ひ残りて

虫食いあり

こゝろ...
けね...
ま...
あ...
ま...
あ...
ま...
あ...
ま...
あ...

こゝろ...
網...
網...
龍...
近...
あ...
な...
い...
な...
析...

あ...
な...
い...
な...
析...

破損あり

